

チーム えがお

【学校教育目標：たくましく生きる児童の育成】

・やさしい子 ・考える子 ・元気な子 ・やりぬく子



発行者：校長 岡田 達也



えがお かがやき かんばる 学校 おうえんだん「チーム北川」～

着衣水泳 水から命を守る!

今週から、各学年で「着衣水泳」を実施しています。近年、着衣のままの水泳指導を実施している学校は増えています。着衣のままの水泳は、水の抵抗を大きく受け、水着のときと異なり思うように泳ぐことができないことを体験的に学ぶためです。大切なことは、速く泳ぐことより、体力を温存したり、体温を保持したりしながら、長く浮いたり泳いだりすることを学ぶことです。

つまり、着衣水泳は、不意に川や海に落ちたときにどうするべきかを体験を通して学び、水の事故から自らの命を守る態度を養うことが目的です。みなさんは、「川や海に落ちたときどうしますか?」と聞かれたら、どう答えますか。服や靴を脱ぐ、声を出したり、手を振って助けを呼ぶ、岸に向かって泳ぐ、などなど。実は、こうした行為は危険な場合があるようです。

まずは、慌てず落ち着くことが大切なのですが、なかなかそうはいきません。だからこそ、正しい知識と体験が必要なのです。よく言われるのが、呼吸を確保し救助されるまで浮き続けることが第一。大の字で仰向けの姿勢で体の力を抜いて浮く「背浮き」がよいようです。次は、何か(ペットボトルなど)身の回りにある浮力のあるものにつかまって浮く「ラッコ浮き」が簡単のようです。

助けを呼ぶため、声を出すと肺の空気が抜け、手を振れば腕と濡れた袖の重さが加わり、かえって沈みやすくなります。服は体温低下や外部損傷から保護してくれます。また、服の中に空気が残っており服を着ている方が浮きやすいと言えます。靴もそれ自体に浮力があります。

つまり、「浮き続け助けを待つ」ことが大切と言えます。これから、夏休みを迎え水の事故の危険性が増しますが、ご家庭でもご指導をよろしくお願いいたします。



「モラル・ディスカッション」5年生道徳学習!

私は、20代の新米教師の頃から、子どもの道徳性の発達について大学の先生や学校の先生方と一緒にささやかな研究を続けています。現在では、全国からいろいろな立場の方が参加され、とてもよい刺激をいただける、自己啓発の場となっています。

そんな中、教育雑誌の編集部より若い先生方へ向けて道徳の授業について原稿を書いてほしいとの依頼があり、5年生と一緒に道徳の授業をしました。10数年ぶりの道徳の授業に、恥ずかしいことに前夜は緊張で熟睡できないほどでした。

担任の先生や子どもたちに励まされ、いざ授業を。モラルジレンマ(道徳的葛藤)を扱い、道徳的な討論(モラルディスカッション)を通して考え(判断とその理由)を深める授業だったのですが、初めての私の授業にもかかわらず、子どもたちは自分の判断や理由をしっかりと発表し、友達の考えもしっかりと聞いていました。私が、道徳学習で大切にしたいこと、①自分の思ったことを自信をもってみんなに伝える、②友だちの考えをしっかりと聞いて、再度自分の考えを見直す、③友達の考えをきちんと受け止める、など、どれもばっちりでした!

判断や理由づけをする、途中でフリートーク(席を立って複数の友達と自由に話し合う)や班指名(手を挙げた子を指名するのではなく、班や列で指名する)、発表は座ったままで、などなど、子どもたちにとっては初めての授業スタイルだったのですが、本当に真剣に、一生懸命に頑張っていました。これまで、担任した学級を中心に、他学年や他校の子どもたちと授業した経験も多少はあったのですが、私が想像していた以上の考えばかりで、友達の発言とかかわらせて発言している姿に感心しました。今回、本当に素晴らしい「学び」の機会をいただき、感謝しています。

